

## 2023 年度グローバル地域文化学部自己点検評価報告

2024 年 3 月 21 日

2023 年度グローバル地域文化学部自己点検評価委員会

### I. 教育活動

2023 年度は、コロナ禍でのさまざまな制限が無くなり、全面的に対面授業に戻った一方で、ポスト・コロナ時代のあらたな課題も散見された。以下、科目群ごとに概要を記す。

- ① 必修科目(講義系): 1 年次を対象にコース横断の「グローバル地域文化論 I・II」(旧カリキュラムでは「グローバル地域文化論」および「グローバル・スタディーズ論」)を開講した。また、おなじく 1 年次を対象に 3 コースそれぞれが「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門 I・II」(旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門」および「グローバル地域文化の基礎」とし、2 年次対象)を開講した。「グローバル地域文化論 I」では、複雑で多様な現代世界を理解する試みとしての「グローバル地域文化学」の基礎を、「グローバル地域文化論 II」では、グローバルイゼーションにかかわる重要な問題群を複数のディシプリン(学術的専門分野)からアプローチする方法を、複数教員がリレー講義形式で扱った。また、「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門 I・II」では、各コースでの学びの基礎となる地域概念や各国事情、歴史的背景や政治・文化・社会状況について扱った。
- ② 必修科目(演習系): 1 年次対象の「グローバル地域文化導入セミナー」と「グローバル地域文化入門セミナー」(旧カリキュラムでは「グローバル地域文化入門セミナー」は 2 年次対象)では、文献読解、文章作成、情報検索の方法や、批判的思考、問いの立て方、口頭発表やディスカッションなど、大学での学びの基礎を鍛えた。なお、初年次セミナーにおける少人数教育を担保するために、2023 年度より導入セミナーのクラス数を一つ増やし、入門セミナーと同数とした。3 年次対象の「グローバル地域文化発展セミナー」、4 年次対象の「グローバル地域文化専門セミナー」では、卒業論文の執筆に向け、基本文献の輪読や各自のテーマ設定、先行研究の批判的読解、文献リストの作成をおこなった。また 4 年次の学生には「卒業論文」の履修を課し、担当教員が個別指導をおこなった。その結果、198 名が卒業論文の提出・審査を経て、合格と判定された(うち 2 名は春学期末に提出)。秋学期末の卒業論文発表会は、各コースとも全対面形式で実施した。
- ③ 選択必修科目(講義系): 「グローバル・イシュー I~II」では、カリキュラムの 4 つの軸の一つである「トピック/イシュー」をグローバルな観点から学ぶ講義を開講した。II 科目のうち 6 科目は 1 年次から履修可能となっている。
- ④ 選択必修科目(演習系): 2 年次対象の「グローバル地域文化教養セミナー I~I3」では、領域横断的・超領域的なアプローチを身に着ける前提として、各ディシプリンに固有の考え方やアプローチ、視角、学問的な手続きを学ぶために、テキストの読解やグループ発表、ディスカッションなどをおこなった。
- ⑤ 選択必修科目(スタディ・アブロード科目): 学部独自の留学プログラムである「海外インターンシップ(メルボルン)」と「海外語学プログラム(英語)」を 2023 年度も実施することができた。コロナ禍を経て本学部生の海外留学志向は依然として高いものの、渡航費用の高騰や 4 年間を通じた履修計画、早期化する就職活動との関連などから、両プログラムの履修者数は減少傾向にある。2022 年度より新設した、身近なグローバル・イシューについて英語で発信できる

力を養成する「グローバル地域文化学の発信」（後述する「グローバル地域文化学の実践 1～5」と併せて履修することで、卒業要件を充足できる）は、前年度 35 名に対し、36 名の学生が履修した。また、留学経験を将来のキャリアに活かすことを支援する「留学とキャリア形成」も開講した。

- ⑥ 選択科目（講義系）：コースごとに当該地域の歴史、社会、文化、現代の課題など多岐にわたる内容の科目を開講した。学生は各自の関心に応じ、コース横断的にこれらの科目を履修した。また、2022 年度より選択科目 A 群に新設した、国内でグローバルな体験を積むことのできるフィールドワーク・プロジェクト型の科目「グローバル地域文化学の実践 1～5」には、多くの海外プログラムが再開したのちも一定のニーズが継続して見られた（36 名の学生が履修）。さらに、この科目と併せて履修を推奨する「質的調査の方法」と「計量分析の方法」を開講した。
- ⑦ 選択科目（演習系）：卒業論文執筆にあたって必要な外国語文献および資料の読解や検索の基礎を学ぶ「〇〇語で学ぶ地域文化研究（英語・初修言語）」と、英語でグローバル・イシューを学び考える「Global and Regional Cultural Studies Seminar」を開講した。

その他：外部試験結果による英語科目の単位認定を実施している。

## II. FD 活動

本学部 FD 委員会の活動として、2023 年 12 月に 1 年次生（2022 年度生）と 3 年次生（2020 年度生）を対象に学部教育への満足度・要望などを尋ねるアンケートを実施した。学生のアクセスのしやすさなどに鑑み、本年も、Microsoft Forms を使ったオンライン形式で実施した。2023 年度分アンケートについてはまだ十分に分析できていないが、全般的には学部専門科目、外国語科目ともおおむね満足を得られていることが示された。一方、個別のコメントからは、語学（英語・初修）科目の改善要求、学部科目の内容充実の要望などが明らかになった。特に、授業内容への不満が一定数寄せられており、その原因をきちんと分析する必要がある。海外留学には前向きな回答が多かったが、円安の影響など費用面で不安を抱えていることや、留学における大学の支援に不満を感じている様子がうかがえる。一方、前年度の FD アンケートの詳細な分析から、本学部に希望する授業について、コース問わず「広い視野・グローバルな授業」が挙げられているが、「コミュニケーション（ディスカッション）のある授業」「卒論に向けた準備・レポート指導」という、実践的な授業を求める回答が多く見られた。また、セミナーについては全体的に肯定的な評価がなされているが、発表の機会への不満などが一定数回答されている。また、低年次セミナーではクラス規模を再検討する必要性がうかがえた。今後、カリキュラムを検討しながら改善を図りたい。

今年度も、2023 年 7 月の教授会後に FD 研修会を実施した。任期付き教員も含め、少人数に分かれて学部内の制度的な問題や授業の工夫、課題についてブレインストーミングを行い、意見交換を行った。教員間で率直な意見交換を行える機会は限られており、今後もこのような FD 研修会を開き、学部教育の質向上を図っていきたい。

## III. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて、学部設置 10 周年記念号として、2024 年 3 月に研究機関誌『GR』（論文、研究ノートなど）第 21 号を発行した。

2023 年 10 月 4 日（水）に、第 11 回グローバル地域文化学会学術講演会「戦争体験の継承——悲しみの記憶とあなたの明日」を、Zoom を利用したハイブリッド型でグローバル地域文化学部生を主体とする GR 学会学術講演会実行委員会の企画運営により主催した。清水恵子（国立

広島原爆死没者追悼平和祈念館朗読ボランティア)、山田朗(明治大学文学部教授)、藤井光(アーティスト)各氏による講演がなされたのち、学内の参加者を中心に活発な質疑応答が行われた。

また、同志社大学グローバル地域文化学部開設10周年記念講演会として、9月30日に「リベラル崩壊の時代の『グローバル』と『地域』」と題して白井聡氏(京都精華大学准教授)の講演がなされ、和泉真澄、水谷智両氏からコメントが付された。11月4日には「ヒトラー前後のドイツ——なぜ民主政は独裁へ転じたのか?」と題して石田勇治(東京大学名誉教授)の講演がなされ、種山洋子、小川原宏幸、倉科一希各氏のコメントが付された。

その他、2023年6月8日(木)に小規模講演会「大島紬の世界」を開催し、南晋吾氏(本場奄美大島紬織元 夢おりの郷 代表)による講演がなされ、参加者による活発な質疑応答がなされた。2023年7月22日(土)には、小規模講演会「『思想』2023年4月号合評会——歴史教育転換の経緯、ジェンダー叙述の変化、歴史統合の現場と教員養成」を開催し、吉嶺茂樹(札幌日本大学高等学校教諭)、三成美保(追手門学院大学法学部教授)、矢景裕子(神戸大学附属中等教育学校教諭、後藤誠司(京都教育大学附属高校教諭/大阪経済大学非常勤講師)各氏による報告が行われ、矢景報告には川島啓一(同志社高校教諭)氏からコメントが付された。

各教員は著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。詳細は、本研究者データベースを参照されたい。

(URL: <https://kendb.doshisha.ac.jp>)

#### IV. 国際交流活動

2023年度はコロナ禍がほぼ終息し、全学および本学部独自の国際交流活動が再開した。渡航に関する制限が緩和され、実際の渡航を伴う海外留学およびインターンシップのプログラムが復活した。

本学部独自のプログラムであるウェスタンミシガン大学へのセメスター留学、オーストラリア・メルボルンでの海外インターンシップが実施された。バンクーバーおよび上海で実施される海外インターンシップは、今年度は休講となった。オンライン・プログラムの海外インターンシップ(デンマーク、アイルランド)は廃止となった。また、本学部とのあいだに交換留学生制度のある韓国の延世大学へ留学生を派遣した。

また、2024-25年度は全学の外国協定大学派遣留学制度にも本学部から多くの学生が応募した。本学部からの合格者は、春学期中に応募期間のあったA日程(渡航先はオーストラリアと韓国)では5名[昨年度は11名]、秋学期中に応募期間のあったB日程(渡航先は北アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国)では52名[昨年度は42名]であった。なお、ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラムについては4名[昨年度は6名]が合格した。

今年度中の本学部が受け入れた海外からの客員研究員はアーモストフェローだけであった。第63代アーモストフェローのエドムンド・ケネディ(Edmund Kennedy)氏は2023年9月1日から2024年8月31日までが在任期間。ケネディ氏は現在シカゴ大学大学院の博士課程の学生で、アーモスト大学進学前はアメリカ軍の軍人として沖縄に駐屯したこともあり、沖縄を軸とした日米関係にアカデミックな関心をお持ちである。フェローの同志社大学でのアドヴァイザーは本学部の英語教務主任・尾崎茂教授である。アーモストフェローシップは、アーモスト大学が学生代表を同志社大学に派遣する1958年創設のプログラムであり、両校の友好関係促進を趣旨とする。その前身のアーモスト・同志社プログラムは1922年に始まっており、通算100年以上の歴史を持つプログラムである。

## V. 社会貢献活動

本大学の枠を超えた本学部教員の活動として以下のものがあった。

宇佐見耕一教授、柴田修子准教授

・2024年3月12日にメキシコから2名の専門家を招聘し、ラテンアメリカ研究センター等との共催で公開シンポジウムを開催した。José Carlos Alba Vega氏(メキシコ大学院大学教授)が「民衆商店労働者の政治組織」に関して発表し、Lorenza Villa Lever氏(メキシコ国立自治大学教授)が「メキシコにおける人権としての高等教」に関して発表し、その後質疑がなされた。

穂山洋子准教授

・学部開設10周年記念講演会「ヒトラー前夜のドイツ——なぜ民主政は独裁に転じたのか?——」の企画、運営、司会とコメントを担当(2023年11月3日、同志社大学)

James Heather 准教授

・Attended numerous TESOL Ontario Canada FD meetings online to maintain license in Canada. (2023年6月18日)

石井香江教授

・ジェンダー史学会年次大会シンポジウムの企画・運営・司会を担当した。(2023年12月10日、奈良女子大学)

見原礼子准教授

・ワークショップ「子どもの性被害の現状を踏まえ、解決に向けて何が必要となるのかを大学生と参加者が共に検討する」企画、運営参加・支援を行なった。

京都市西京区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会主催(2023年8月1日、京都市)

水谷智教授

・小規模講演会の実施。「パレスチナ危機—反植民主義的な<連帯>の可能性と課題」(2024年01月18日、同志社大学)

清水穰教授

・グローバル地域文化学部創設10周年記念行事を行い、3つの記念公演を組織した。

・さらに以下の講演、対談などを行なった:

講演「言葉とアート」目黒区美術館、東京都(2023年6月5日)

講演「レディメイドと書」メディアショップ京都、京都市(2023年11月11日)

J-WAVE ラジオ「Grand Marquee」にコメンテーターとして出演(2023年12月5日放送)

講演「コンテンツポラリーな書とは」淡路島 S-Brick、兵庫県洲本市(2024年1月24日)

対談(菊池ビエンナーレの受賞作家と) 菊池寛美記念智美術館、東京都(2024年2月17日)

対談(野村浩と) Poetic Space Gallery、東京都(2024年2月17日)

#### 尹慧瑛教授

・正課科目である「グローバル地域文化学の実践2(奄美で考える多様性と持続可能性)」との連動企画として、2023年に日本復帰70年を迎えた奄美大島の歴史と文化を知り、「日本」の多様性について考える機会とすべく、小規模講演会を実施した。(2023年6月8日、同志社大学)

#### 浅羽祐樹教授

・「グローバルイシュー9」で小泉悠氏(東京大学先端科学技術研究センター講師)と兼原信克氏(法学部特別客員教授)との鼎談を実施した。(2023年7月21日)

#### ・銭鷗教授

桃の会 2023年度例会、企画・世話人(2024年3月9日、同志社大学)

#### Aysun Uyar 准教授

・2023年秋学期 Kyoto Consortium for Japanese Studies: Japan and East Asian Regional Environmental Issues、同志社大学。  
・2023年7月21日、ゲスト・スピーカー、「和食とグローバリゼーション」、立命館大学食マネジメント学部「世界の食と経済」講義。  
・2023年11月28日、非常勤講師(1回)、「アジア:トルコの食文化」、京都府立大学文学部和食文化学科「比較食文化学」講義。  
・2024年2月2日、ゲスト・スピーカー、「トルコの文化」、京都教育大学附属桃山中学校。

#### 王柳蘭准教授

・『おだやかな革命』2018/日本/100分、監督:渡辺智史、上映会+監督とゼミ学生とのトーク、同志社大学 寒梅館クローバーホール(2023年11月13日)

#### 二村太郎准教授

・西陣朝市マルシェ(西陣児童公園)でのボランティア、設置&撤収手伝い。(2023年6月11日、9月10日)

#### 和泉真澄教授

・アメリカ研究所の部門研究3の活動として、研究会や映画上映会、ブックトークなどを行った。社会貢献としては、日系カナダ人の戦時体験に関する展示「Broken Promises」の日本巡回展示「破られた約束—太平洋戦争下の日系カナダ人」を滋賀県平和祈念館で開催した。(2023年11月18日)

#### 神崎舞准教授

・「『国際演劇年鑑』ワールド・シアター・レポート# File 12『カナダ』—カナダの舞台芸術にみられる地域性」、公益社団法人国際演劇協会日本センター、オンラインによる講演を行なった。(2023年12月22日)

坂本南美准教授

・津山市の小・中学校教員を対象として継続的に開催された授業研修会(津山市教育委員会)  
[第1回:2023年6月16日、第2回:2024年1月19日]、全国の Assistant Language Teachers を対象とした英語授業研修(Agora)[2023年11月8日]にて講師を務めた。

## VI. 学生支援活動

- ① 学習支援:外部の外国語(英語・初修外国語)検定試験の受験に際し、受験料の半額補助を行っている。また、TOEFL ITP®に加えて、前年度に引き続きIELTSの集中対策講座を実施した(次年度以後は廃止と決定)。語学力向上のための機会をさまざまな形で提供した。
- ② キャリア形成支援:昨年度に引き続き、就職委員ならびに学生有志団体「グローバル★キャリア企画」との連携により学生の目線からGRでの学び、留学、キャリアを連続的にとらえることを目的にした「グローバルキャリア・トーク」を4回企画した。本企画の特徴は、グローバル地域文化学部の在学生在が就職への手がかりを得るのみならず、卒業生とのつながりを意識し、交流の機会を生み出す点にある。また、学生委員による企画の準備、講演者との連絡、当日の司会と進行が行われることで、学生の主体性と協調性、発信力の向上に役立つ学びを提供することができた。

### 第1回 グローバルキャリア・トーク「今の私が通ってきた道、一人ひとり違う道」

日時:2023年7月4日(火)16:40~18:10

会場:SK122、オンラインズーム併用

講師:藤井 佑有 氏(2017年度卒業生 アジア・太平洋コース)

対面・オンライン参加合計:33名(内オンライン11名)

### 第2回 グローバルキャリア・トーク「今の私が通ってきた道、一人ひとり違う道」

日時:2023年11月14日(火)16:40~18:10

会場:SK113

講師:山本 菜央 氏(2022年度卒業生 アメリカコース)

実施方法:オンライン

アクセス数:16名

### 第3回 グローバルキャリア・トーク「GRの学びとウェールズの日常」

日時:2023年12月19日(火)14:55~16:25

会場:オンラインズーム

講師:堀川 萌 氏(2020年度卒業生 ヨーロッパコース)

アクセス数:13名

### 第4回 グローバルキャリア・トーク「先輩に聞いてみよう!GR学部生の留学×就活体験談」

日時:2024年1月23日(火)16:40~18:00

会場:オンラインZoom

アクセス数:28名

プログラム:

【第一部】挨拶・話題提供 16:40~17:30

ヨーロッパコース 2022年度卒業生「気づけばそこはグローバル」

アジア・太平洋コース 2019年度卒業生「一歩ずつの積み重ねが自分だけの道に」

アメリカコース 2022年度卒業生「自分の選択を自分で正解にしていく」

ヨーロッパコース 4年次生「やってみたいことは全て挑戦してみた」

【第二部】留学×就活トーク 17:30~17:55

【閉会】18:00

### ③ 今後の課題

・コロナ禍以後、オンラインによる就職活動も含めて、学生のキャリア形成にかかわるイベントは多様化している。本学部における学生支援のあり方も、こうした変化の動向を見据えて、活発化させるべく展開していくことが求められる。

・卒業生間のつながりを構築し、近未来において同窓会を発足できるような環境づくりを就職委員会がいかに支援できるのか、その可能性と学生間の相互連携におけた対策を検討することなどが課題となった。

## VII. 学部開設10周年記念行事

学部開設10周年を記念し、以下の行事等を行った。

・記念式典及び記念コンサート

開催日:2023年11月3日

場 所:寒梅館ハーディーホール

・第1回 記念講演会「リベラル崩壊時代の「グローバル」と「地域」」

開催日:2023年9月30日

場 所:志高館112番教室

・第2回 記念講演会「ヒトラー前夜のドイツ——なぜ民主政は独裁へ転じたのか?——」

開催日:2023年11月4日

場 所:志高館112番教室

・学部ロゴの制作

京都の老舗「唐長」のもと、学部ロゴを制作した。なお、このロゴは唐長「平成令和の百文様」の1つとして加えられている。

以上